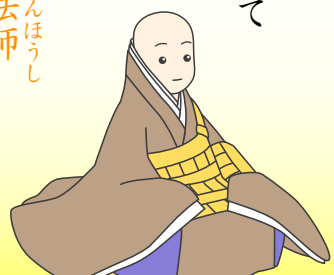


百人一首 (歌番号: 66 ~ 70)

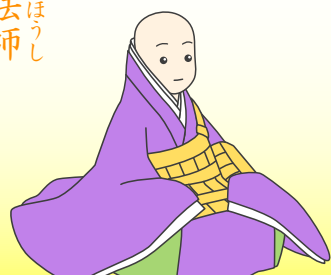
さびしきに
宿を立ち出でて
ながむれば
いつこも同じ
秋の夕暮

良暹法師
りょうぜんほうし



あらし吹く
三室の山の
もみぢ葉は
竜田の川の
錦なりけり

能因法師
のういんほうし



心にも
あらでうき世に
ながらへば
恋しかるべき
夜半の月かな

三條院
さんじょういん



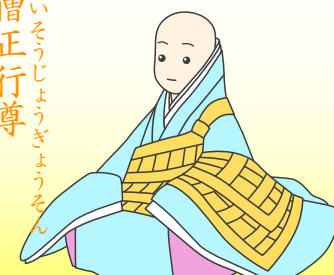
春の夜の
夢ばかりなる
手枕に
かひなく立たむ
名こそ惜しけれ

周防内侍
すおうのないし



もろともに
あはれと思へ
山桜
花よりほかに
知る人もなし

前大僧正行尊
さきのだいそうじようぎようそん



いずこもお
なじあきの
ゆうぐれ

たつたのか
わのにしき
なりけり

こいしかる
べきよわの
つきかな

かいなくた
たんなこそ
おしけれ

はなよりほ
かにしるひ
ともなし